

広報かわにし

発行所 川西町役場 発行者 川西町 <町長 根津正三>
編集人 星名四郎 印刷所 白南風社 定価 1部5円

—人口の動き—

11月1日現在

男 5,955人
女 6,161人
計 12,116人

世帯数 2,577世帯

- 一、均正と調和のとれた町政の実現
- 二、産業の開発と教育の振興
- 三、道路整備促進と豪雪対策の確立

公約

四、中小企業の振興と観光の開発
五、僻地の振興と社会開発の促進

抱負

公約にかかげた五つの柱を軸と

新町長誕生 一日初登庁



して町発展のために努力いたしますと誓っております。

十一年の中村町政によって確立した健全財政を引き継ぎ、豊かな川西町、明るい川西町を育てあげ

十一月の行事

- 一日 狩猟解禁
- 二日 仙田中二十周年記念式
- 三日 文化の日
- 四日 町内小中学校文化祭
- 五日 秋季消防演習
- 六日 参議院選挙投票日、開票
- 六日 橋地区会議
- 七日 農業委員会

こと。中村町長の偉業のあとを継ぎ一生懸命に町民の幸福のために尽くす。選挙中の対立は水にながし三者ともに協力して統一した町政を行なってゆきたい。

略歴

旧制県立六日町中卒 文部省
第一拓殖訓練所修了 昭和二十二年上野村収入役 三十六年川西町収入役 四十二年九月退職

人物紹介

「温厚篤実、敵をつくらず、いつも縁の下の力持ち的存在で、収入役として尽くした」これが萬人の認める新町長評。
ワンマンとして「川西町の虎」の偉名をさせた故中村町長時代を二期七年にわたり収入役の要職にあって、陰の力として二つのことが当選の大きな要因と噂される。

「出たが、もういらない人」根津氏を慕う人々の合言葉が有志を団結させ、強い戦力として栄冠への道を開いた。

選挙遊説中、過去七年の大蔵大臣の経験からする細かいパーセンテージが聴衆をひきつけ、またヤ

八日 引揚者特別給付金説明会
九日 魚沼地区造林大会 (節黒城)

- 十日 赤岩小八十周年式
- 十一日 健康優良児表彰式
- 十三日 定例教育委員会
- 十四日 定例町議会
- 十五日 多収穫成績検討会
- 十九日 家庭の日
- 二十日 勤労感謝の日

常に謙虚で、はったりも高ぶるものないもの静かな人柄だけに、はげしい選挙戦を争い抜けるかと案ずるむきもあつた。口数も少なくひかえ目な日常が不意なほど熱のこもる話をエールギッシュにくりひろげた。たいへんなテレ屋だつたらしく、話しながら目がねをすり上げ、鼻をこすり……落着かないクセも選挙戦にきたえられてすっかり解消、町長としてのカンロクは十分である。

十一月一日役場初登庁の第一声に謬を引用「母となることはやさしいが母であることはむずかしい町長になることはやさしいが、町長であることはむずかしい」むずかしい選挙戦を勝ち抜き、さらに町長の責務の重さを痛感し抱負と協力をよびかけている。

新町長 アンジ

たのんまつせ!!
生まれは南魚六日町、ムコ入りした根津家は大字上野の旧家である。家庭には若狭夫人と成人した一男二女があるが、いずれも妙麗のチヨン方である。

神武以来の投票率

選挙区別	性別	選挙人名簿数	修正数	選挙当日現在選挙権者数	左のうちに選挙権のないもの		差引	選挙当日の有権者数	投票者数	投票率%
					選挙権のない者の数	選挙権のない者の数				
千手1	男	673	7	666	12	12	654	654	607	92.81
	女	782	9	773	12	12	761	761	730	95.93
	計	1,455	16	1,439	24	24	1,415	1,415	1,337	94.49
千手2	男	562	4	558	2	2	556	556	533	95.86
	女	643	5	638	1	9	628	628	609	96.97
	計	1,205	9	1,196	3	11	1,184	1,184	1,142	96.45
上野・下平新田	男	293		293			293	293	286	97.61
	女	324	5	319	4	4	315	315	307	97.46
	計	617	5	612	4	4	608	608	593	97.53
新町新田・田代	男	113		113	1	1	112	112	104	92.86
	女	123	1	122			122	122	121	99.18
	計	236	1	235	1	1	234	234	225	96.15
小坂津・三領	男	69		69	1	1	68	68	68	100.00
	女	80	1	79	1	1	78	78	76	97.44
	計	149	1	148	2	2	146	146	144	98.65
元町・星名新田	男	106		106			106	106	104	98.11
	女	103	1	102			102	102	99	97.06
	計	209	1	208			208	208	203	97.60
仁田・野口・塩幸	男	418	3	415	1	1	413	413	394	95.40
	女	473	6	467	3	3	464	464	443	95.47
	計	891	9	882	4	4	877	877	837	95.44
原田・根原・下原	男	121		121	1	1	120	120	117	97.50
	女	144	2	142	1	1	141	141	138	97.87
	計	265	2	263	2	2	261	261	255	97.70

選挙区別	性別	選挙人名簿数	修正数	選挙当日現在選挙権者数	左のうちに選挙権のないもの		差引	選挙当日の有権者数	投票者数	投票率%
					選挙権のない者の数	選挙権のない者の数				
木曾・中ヶ嶽	男	149	2	147		1	146	146	143	97.95
	女	169	5	164			164	164	157	95.73
	計	318	7	311		1	310	310	300	96.77
中仙田・田戸・湖之尻	男	317		312			312	312	300	96.15
	女	347	1	346			346	346	338	97.69
	計	664	1	658			658	658	638	96.96
釜島・栗谷・黒沢	男	243	5	238	1	1	237	237	228	96.20
	女	249	5	244	3	3	241	241	232	96.27
	計	492	10	482	4	4	478	478	460	96.23
赤谷・岩瀬	男	237	2	235	1	1	233	233	224	96.14
	女	247		247	4	4	243	243	235	96.71
	計	484	2	482	5	5	476	476	459	96.43
大白倉・小白倉	男	221	2	219			219	219	214	97.72
	女	229	4	225	1	1	224	224	213	95.09
	計	450	6	444	1	1	443	443	427	96.39
小筋	男	47		47			47	47	46	97.87
	女	48	1	47	1	1	46	46	43	93.48
	計	95	1	94	2	2	93	93	89	95.70
高倉	男	107	1	106	2	2	104	104	102	98.08
	女	113	1	112	1	1	111	111	109	98.20
	計	220	2	218	3	3	215	215	211	98.14
大倉	男	35		35			35	35	35	100.00
	女	39		39			39	39	38	97.44
	計	74		74			74	74	73	98.65
計	男	3,211	31	3,180	2	23	3,155	3,155	3,015	95.90
	女	4,113	47	4,066	1	40	4,025	4,025	3,888	96.60
	計	7,324	78	7,246	3	63	7,180	7,180	7,093	96.26

候補者別得票数

参議院議員補欠選挙

佐藤隆	2,753票
松井誠	2,681
寺島泰治	162

町長選挙

根津正三	3,117票
南雲章	2,332
小林伝司	1,918

投票結果

男女別	選挙当日の有権者数	投票者数	投票率	有効投票	無効投票
男	3,677	2,765	75.20%		
女	4,062	2,921	71.91		
計	7,739	5,686	73.47	5,596	88

投票結果

男女別	選挙当日の有権者数	投票者数	投票率	有効投票	無効投票
男	3,655	3,505	95.90%		
女	4,025	3,888	96.60		
計	7,680	7,393	96.26	7,367	25

新町長に望む

青年が 魅力を感じる町に

山口 信 江



希望と不安の入混じり複雑な気持ちで投票した一票

有線が開票速報を聞くたびに、胸がどきどきしていた私でした。

これまでは町政というものにはあまり興味のあるほうではなかった私でしたが、今回の選挙で、もっともっと町政を知っていなければならぬように感じました。

町の財政もあまり裕福でないように聞いておりますので、公約を履行していくにもたいへんなことだと思われますが、一つ一つ確実に進んでいくべきだと思います。

町長さんいろいろな計画されていることもありますが、住みよい町、魅力のある町にしたいと思っています。若い人たちが農業を営んで町を出ていく今日です。どこに原因があるのかはつきりしたことは知りませんが、農業に対してもっと魅力があったら、若い人たちのエネルギーの発散できる場所や憩いの場所がもっとあつたらなどと考えます。幸い、町には青年学級もあるこ

公民館の建設を

丸山 和子



道路、学校施設、農業問題、町はたかさんの事業

をひかえていることと思えます。しかし、公民館を建設して下さい。青年の立場として一番望みたいことです。

夜中にオートバイで暴走したり酒を飲んでみたり、これらはみな若者のエネルギーのはけ口です。そしてこれらが必ずしも犯罪に結びつかないともいえないと思えます。こうした時にスポーツや話しあいのできるところ、レコーダ鑑賞や読書など、それぞれの趣味を生かして学習できる施設があつたら本当に、若いエネルギーの発散場所として最適かと存じます。それはかなり近ごろでは、農家の人を対象に農亲身体操が、出機の織子には出機体操が考え出されてき

ました。また毎年実施されているスポーツフェスタの結果でも、いかに運動不足かということがはつきりと示されています。こんな意味からも町民全員が気軽に利用でき健康なからだをつくるためにぜひ体育設備のある、公民館の建設をお願いしたいのです。また公民館の建設に先がけて、公民館職員を増加を早急にお願いたします。青年学級、婦人学級ともにその活動は年々盛んな反面職員不足が急を要しているように思えてなりません。そのために学級生の熱心な学習計画上でどんな不自由を感じているか底しれないのです。それに相当多くの末組織青年に募集のよびかけをしても、世話役の手不足はどうにもなりません。ぜひとも考慮していただきたいと思えます。

とですので、大いに活用して行きたいと思っております。

町長さんにもなをやるにもたいへんなことだと思われませんが、私たちの期待にそうよう一生懸命にやっていたいただきたいと思います。

職場がなければしかたのないことだ。二、三工場があつても毎年採用する数などははれていて、しかもかといって五反百姓の所へ長男一人でさえ農業だけでは生活していけない所へ、次男が居候みたいにいるわけにもできないので、しかたなしに都会へという人たちがも出てくることだろう。

住みよい町に

小林 茂 夫



若い人たちがこの農村地帯から都会へと流れて農村の大きな問題となっているが、出て行く人たちは都会にあこがればかりで出て行くのではないと思うこの郷土に住んでいくとも動く

職業がなければしかたのないことだ。二、三工場があつても毎年採用する数などははれていて、しかもかといって五反百姓の所へ長男一人でさえ農業だけでは生活していけない所へ、次男が居候みたいにいるわけにもできないので、しかたなしに都会へという人たちがも出てくることだろう。

この人たちのため、また、冬になって出稼に出なければならぬ現状を打開するために、商工業の発展に力を入れて、工場誘致等を積極的に押し進め、家から通勤できる職場が、いくつかできるようにしてもらいたい。工場でもできれば当然町へ金が落ち町も豊かになるだろうから、農村独特のさびれた感じから脱皮することができ若い者もある程度落ちつくのではないだろうか。

へき地の振興を

小林 妙子



私はことしてはじめて選挙をするつもりになりました。

その一番最初が最も身近な町長選挙でありました。それにしても候補者の方がどんな政見をもち、どんな人格者であるのか知りませんでしたので、立会演説の日を待っておりました。

そこで感じましたことは、三人の方がたの話を一緒に全部きかれること、立会演説とはよいものだと痛感いたしました。ところが一生懸命町政をきこうとしておりましたのにやじの多かつたのには閉口しました。こういうことは町民として改めるべきだと思います。

次に、当選された町長さんはたいへん立派だと思えますが、他の候補も立派な方たちで、それを交差された方もさうとうありました

それだけに私が町長さんに望みたいことは、あくまでも公平な政治をしていただきたいことです。町長さんの公約の「へき地の振興対策」を具体的に計画していただきたいと思えます。

私の家は牛乳屋ですから、朝早くから牛乳を配達するのが私の役目です。ことしもまた、私が泣きたい季節が目の前にせまってきました。それは、冬の道が悪いからです。バイクは通れないし、もっぱらソリで運搬しますが、各部落に通じる道路の悪いのには困ってしまいます。そんな時、いつも仙田の嫁になるのはイヤだと思ふのです。そして、どうして同じ人間でありながらこんな不便な所に生まれたのだらうと、雪と戦いながらため息の出るのをどうすることもできません。以前には、私たちの地域にも乳牛を飼育している農家がたくさんありましたが、冬の運搬が困難で牛乳をくさらせてしまい、次々と飼育をやめ、みんな出稼ぎに変わってしまいました。せつなくおとうさん方が家にいられるようになり、よかつたと思つたのに……

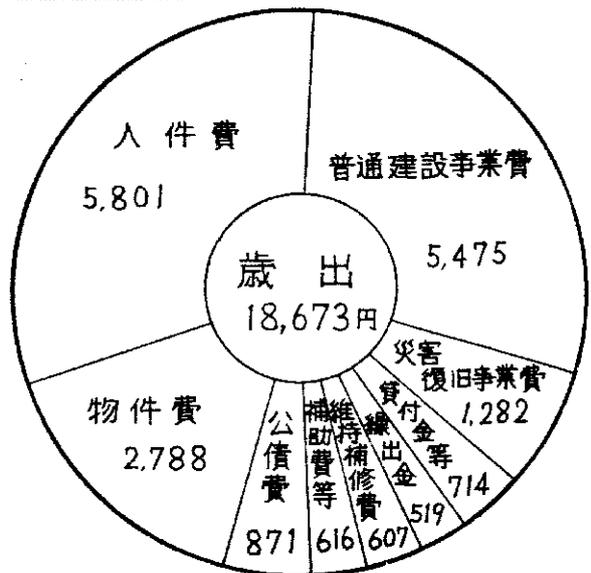
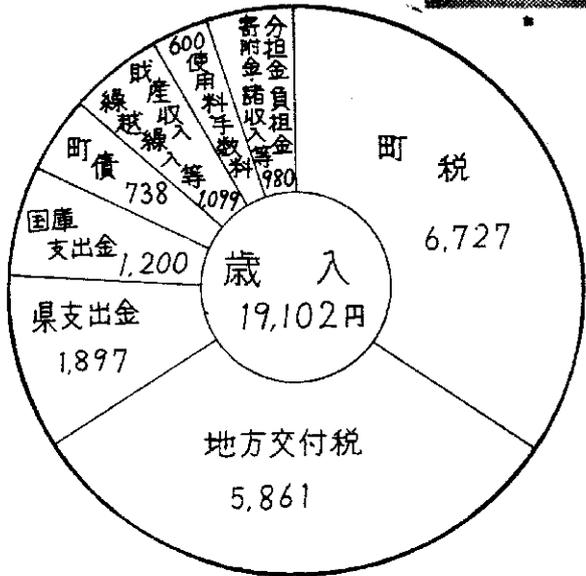
それで、せめて冬期間、仙田専属のブルトナーを一台配属していただきたいと思えます。

また、学校給食でないのは仙田地区だけとなりました。町長さんの公約の中で、これは必ずやるといわれておりましたが、若くて誠実で、活動力のある新町長さんに絶大な期待をいたしております

※紙面の都合で全文を掲載できなかったことをおわびします。

それだけに私が町長さんに望みたいことは、あくまでも公平な政治をしていただきたいことです。町長さんの公約の「へき地の振興対策」を具体的に計画していただきたいと思えます。

11月に見る1年度決算



●国保事業会計

歳入		歳出	
科目	決算額	科目	決算額
1.保険料	19,845 ^円	1.総務費	4,222 ^円
2.一部負担金	0	2.保険給付費	42,327
3.国庫支出金	31,333	3.保健施設費	2,312
4.県支出金	0	4.繰出金	4,399
5.他会計繰入金	5,399	5.基金積立金	70
6.基金繰入金	0	6.公債費	86
7.繰越金	5	7.前年度繰上充用金	0
8.その他の収入	85	8.その他の支出	478
歳入合計	56,667	歳出合計	53,894

●国保施設会計 (診療所)

歳入		歳出	
科目	決算額	科目	決算額
1.診療収入	20,266 ^円	1.総務費	16,012 ^円
2.国庫支出金	774	2.医療費	8,403
3.他会計繰入金	4,399	3.公債費	4,806
4.繰越金	0	4.施設整備費	246
5.その他の収入	321	5.その他の支出	17,358
歳入合計	25,760	歳出合計	46,825

●農業共済事業会計

歳入		歳出	
科目	決算額	科目	決算額
1.共済掛金及交付金	34,344 ^円	1.保険料及び技術料	12,654 ^円
2.保険金及び診療報酬金	1,548	2.共済金	4,942
3.連合会無事戻金	141	3.無事戻金	391
4.賦課金	858	4.総務費及び業務費	4,359
5.県支出金	2,657	5.連合会支出金	119
6.繰入金	500		
7.繰越金他	3,514		
歳入合計	12,652	歳出合計	9,937

町長選をかえりみて

みぞうの町長選挙だった。異常なまでにたかかった町民の関心を地方紙は血で血を洗うとまで報じたほどである。静かさをとりもどしたいま、ご一考いただきたいのと、いづくかをとりあげてみたい。平和で明るい川西町のはずであった。それが、中町町長のなくなられた前後から、町のあるところにイデオロギーの対立が見られるようになった。円満だった家族、親類、隣り近所が、夕チもきかないようになり、法事にも来なかったような遠い血縁が、逆に往き来するようになったりした。目の色を変えてまで反目し合わなければならなかったのはなぜか。身近な町政に目を向ける絶好の

チャンスだった。それなのに、オラ地区の支持する候補以外は個人演説会があっても行くことならぬという達しの出た部落もあった。聞くこと、話すことの自由があたえられてから二十余年もたっているのに、みずからをソソボさしきにおことうとするのは、あきれてものいぬ。よそへ用事に行こうとしても、当番と称する数人のむねが村の要所を固めていた。警察官でもないのに、車の前に立ちふさがって停車させる一団もあった。こうしたことが、善良な町民に無言の威圧を感じさせ、人の往き来を妨げ、心ある内外人の失笑を買った。川西町民ならではの選挙のつどのエチケットとも思えぬ。



たしかに、町長は平場から、とか、仙田の候補を落とすな、という熱気がみなぎっていた。そうした中で、当選後は地元より他の地区を優先してもらおう、と説いてまわったのは上野の運動員だった。仙田の立会演説会場で、平場の候補が仙田の提議のいくつかを強説しているのに、地元の住民はどく吹く風、それに万雷の拍手を送ったのは、バスを連ねて応援に駆けつけた平場の人たちであつた。オラのことも真剣に考えていくと、そう思ったら、すなおに共感の拍手を送るべきであつた。なぜそれができなかったか。平場の演説会場でも同じ意味のことがいえた。異道そいのが家は選挙のたび

に格好のポスター掲示場となる。どの候補にも公平に、そのつと気もちよくはってもらうことにしている、いつしか小市民的責任感をおぼえるから不思議である。こんどの選挙には、山地の候補はゴメンだといって、どうしてもポスターをはらせぬ家があつたと。十月二十九日朝、わが家の路地に一台の乗用車が止まった。見れば機津派の運動員と目される人たちであつた。勝つておける態度がみじんもなく、敗者のポスターまできれいはがして持ち去つた。この一事に胸があつくなり、よし根津町政に協力しようという気になった人は多かつたと思う。善哉借敗の南雲さん、小林さん派も、新生、川西丸の船足を軽やかにしてくれることであらう。

保坂長雄氏 全国表彰

食品衛生協会川西分会長保坂長雄氏(千手三嶋屋)は、永年にわたり分会長をはじめ十日町支部長、県協会理事として食品衛生に尽くされた功労が認められ、このたび東京丸の内東京商工会議所ホールにおいて開催された昭和四十二年食品衛生全国大会の席上、日本食品衛生協会会長の足立正氏より表彰状と記念楯が贈られ、その榮譽をたたえられた。なお、この表彰は全国二百五十万関係者の中から指導的立場にある百人を厳選して決定したものであり、中魚沼郡十日町市管内では初めて。

